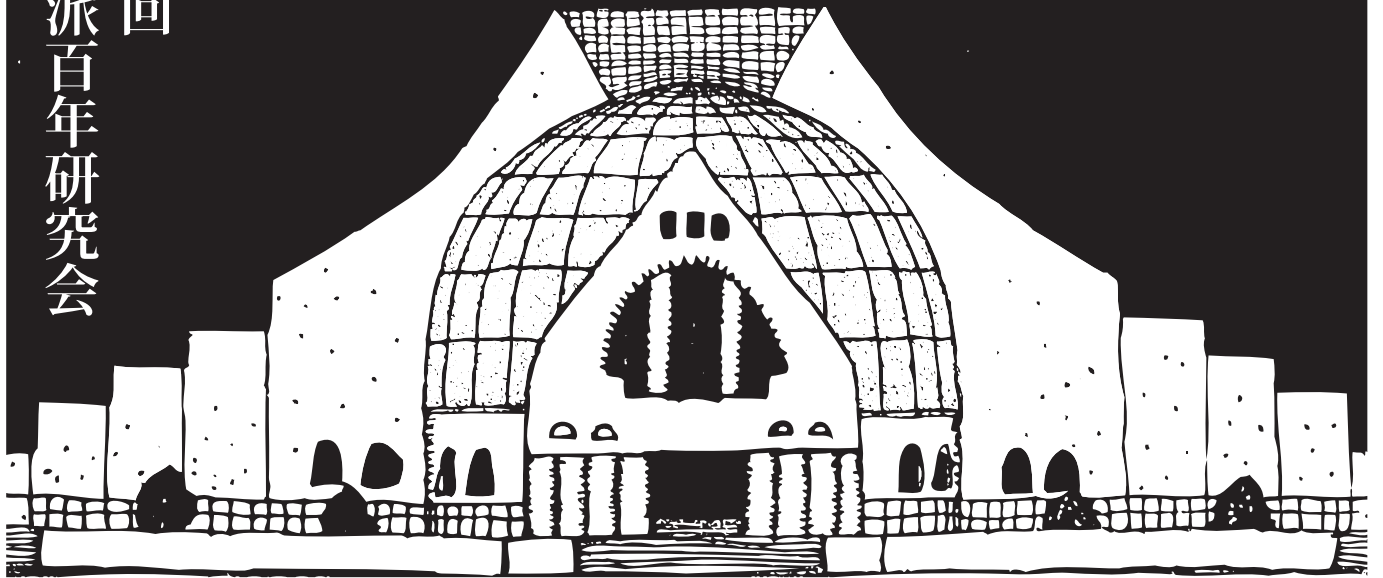


# 第5回 分離派百年研究会



## 分離派建築會宣言と作品

2014年7月13日(日) 13:30—17:00  
京都大学 吉田キャンパス 工学部3号館西棟4階 W404室

### 堀口捨己の茶室 —— 研究と作品

松崎照明 (明治大学大学院 兼任講師)

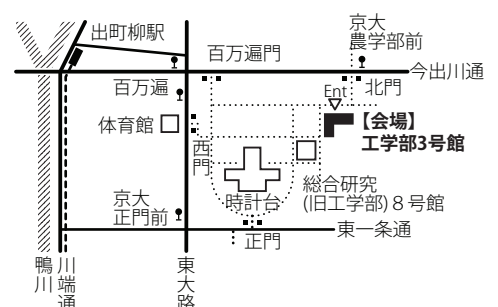
分離派建築会を中心として、日本の初期近代建築運動を担った建築家・堀口捨己は、同時に歴史の研究者でもあった。その数寄屋造、茶室および庭園の研究は、現在でも繰り返し引用される高度な内容を持つが、なかでも茶室の研究は質量とも群を抜いている。しかもそれは史料によって実証的に茶室の歴史を解明したに止まらず、常に造形手法の抽出を伴い、新しい建築への応用をも可能にしている。

### 堀口捨己の建築論 —— 茶室の「機能」と「表現」をめぐって

近藤康子 (京都橘大学 助教)

分離派時代から堀口捨己 (1895-1984) が主張するのは、建築における用と美との融合である。その究極的な事例として取り上げられたのが、中世に建てられた茶室であった。茶室に見出された「機能と表現との一元的な完成」とは、どのような事態なのだろうか。堀口が茶室の背景にあると位置づけた茶の湯についての言説を手掛かりに、その内実を探る。

#### ○案内図



- 入場無料
- 定員 30名 (参加ご希望の方は、下記までご連絡ください)  
法澤 (京都大学田路研究室) ta-hosawa@archi.kyoto-u.ac.jp
- 研究会後、懇親会を予定しています。